教区通信 ふくおか

2019（平成31）年１月１日発行
Vol.127
発行
「御同朋の社会をめざす運動」
福岡教区委員会

「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）スローガン

結ぶ絆から、広がるご縁へ

−From tying bonds to great encounters−

▲ ビハーラ・ライン・福岡＜こころの電話＞　開設二十周年　感謝の集い

P２　新年のご挨拶
P２　教区会議員研修会
P３　子どもの貧困についての取り組み
P３　参考書籍の紹介
P４　ビハーラ･ライン･福岡＜こころの電話＞　開設二十周年　感謝の集い
P５　寺院仏壮結成に向けた研修会
P５　門徒代表者協議会　実践運動研修会
P６　志摩組　実践運動の取り組み
P６　柳川組　実践運動の取り組み
P７　早良組　実践運動の取り組み
P７　法話　僕らは「ご縁」でできている
P８　行事予定

新年のご挨拶

福岡教区教務所長・本願寺福岡教堂主管　野村　宗雄

謹んで新年のご挨拶を申しあげます。

平素より教区の活動、教堂の護持にご理解ご協力いただいておりますこと厚くお礼申しあげます。

昨年七月に赴任し、慌ただしい中にも半年が経ちました。着任早々には、多くの皆さまとともに、九州北部豪雨一周忌法要修行のご縁を頂戴しました。そのわずか二週間前には、西日本豪雨（平成三〇年七月豪雨）が発生し、福岡を含め九州北部豪雨と同じような被害がより広範囲に発生しておりました。ご門主さまには、その被害が甚大でありました広島、岡山の被災地を通過されてのご出向、ご臨席を賜り、複雑な心境とお察しする中、翌日は朝倉市、東峰村へ視察、お見舞いに向かわれました。現地では、参集の方々の手を握り話かけられ、寄り添う姿勢を有り難く拝見させていただいたことでありました。

当教区では、東日本大震災を機縁に「災害支援」を「御同朋の社会をめざす運動」の実践目標に継続して挙げております。今後もさまざまな災害の発生が想定されることから、今期において、これまでの災害支援を再点検、総括し、あらゆる災害の被災者支援、寄り添うあり方について、新たな課題を模索、検討することとなっています。

「御同朋の社会をめざす運動」の実践目標は、取り組むべき必然性あるいは危機感から目標が立てられるものであり、災害支援については、被災者への支援という納得しやすい必然性があるといえます。一方、本年度より宗門全体の実践目標となりました「貧困の克服に向けて～子どもたちを育むために～」については、なかなか見えにくく実感し難い課題であります。目標設定までの時間的制約もあり十分な準備ができなかったのでしょうか、宗派からの学習会では、具体性、説得性を感じることが難しいものでした。よって、教区では手探りで問題の所在を見つけ学ぶことから始めておりますが、そうした手間から見えてくる、気づかされることで、展開することに期待したいと存じます。

これら二つの実践目標を中心に、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現をめざして、ともに歩みを進めてまいりたいと思います。よろしくご教導、ご協力をお願い申しあげます。

教区会議員研修会

早良組　妙福寺　住職　土生　真

教区会議員研修会が十一月五日に開催され、議員二十二名が参加し、講師の髙石彰也先生（前宗会議員）から「宗派・教区のかかえている課題について」講義をいただきました。

（1）葬儀をめぐる最新状況を紹介され、直葬からさらに無葬化「遺体処理」だけとなり、「仏前葬儀」をとり戻せるかが、寺院僧侶に問われている。それには仏法回復運動をするしかなく、いまはそのチャンスであると。

（2）教区会の役割について、これまで検討・議論されてきた「教区長期振興計画」の諸問題を紹介し、教区会はいまどう取り組んでいますかと投げかけられました。教区会は、教えと現実との橋渡し、組と教区の橋渡しの役割があると。

（3）「御同朋の社会をめざす」ために、専如門主の「念仏者の生き方」をもとに、現実社会にてらして学び、自分中心の生き方を転換する学びの大切さを強調。また各寺院での報恩講が一つの事業として成功しているか点検を求められ、教化組織を血の通ったものに作り替える必要性を指摘されました。

その後の全体協議会では、寺院が減少している根本原因は何か、という質問が出て、髙石先生からは、寺院が社会から期待されなくなり寺離れが進んだ。寺院に求められている「公益性」というのは、たとえ国の施策とぶつかろうとも、つらい人が飛び込んでこれるような宗門・寺院になることだと。

先生の指摘を受けて、私から教区会の課題として次の三点を述べました。

①組織の問題として、「教堂の別院化」構想や組画の問題など、以前から提起をされていながら引継ぎが出来ていない。過去に先輩方が議論を重ねてきたことがいくつもあるはずなのに、それらが生かされずに埋もれたままになっているのは何とも残念なことです。

②財政の問題として、護持口数の問題があり、各組間の不公平感を是正していくことは、教区の大きな課題として残されています。

③財産管理の問題として、教堂が再建されて二十年が経過し、この夏には空調と照明関係のメンテナンスが施工されましたが、今後の維持管理計画の策定が求められています。

本山においては「これからの真宗寺院像」が検討され、新たな提案がなされていることを教えられましたが、現状の問題の多くは以前から指摘されてきたことであり、宗門として有効な対策・指導が行われなかったというのが現実ではないでしょうか。真宗の教えがもっと現代人に分かりやすく魅力を感じてもらえるような教学・伝道の構築をしないでおいて、寺院の運営ばかりを変えるよう求められても、小手先だけの対処療法にしかならないのではないかと思います。

子どもの貧困についての取り組み

那珂組　浄運寺　住職　白山　義章

春日市の浄運寺では、校区の有志ボランティアの方々と共にこども食堂を毎月開催しています。

最初は二〇一六（平成二十八）年七月に地域の公民館を会場としてスタートしました。食材の保管や部屋を利用する他団体との兼ね合いもあって、翌月からは浄運寺で開催することになりました。お寺では普段から婦人会の集会や法要のお斎を用意するのに調理器具や調理場、食器に食事をする場所もあるため、特別に用意する道具などなくてもこども食堂を開催することが出来ました。

開催当初はまだ「こども食堂」という言葉が貧困を連想させてしまうということで、会の名称を「こども料理クラブ」と称し開催し、第一回目の時に参加したこども達に考えてもらい「元気ワクワク料理クラブ」と呼ぶことにしました。

こども達に安心、安全な食材をつかって、旬のものの美味しさを味わってもらいたいと考え、フードバンクには食材調達を依頼せず、近隣やご門徒さんのお野菜、お米の寄付をいただいて季節のお料理を用意するようにしています。

基本的に月一回、土曜日に開催していますが、十時から受付、集まって来た子どもたちは宿題をしたり、遊具で遊んだりして過ごします。調理の手伝いがあるときにはお手伝いもします。十一時半頃食育の絵本の読み聞かせなどをしてから皆で配膳します。十二時に食材の由来や料理の説明をして、一緒に食事の言葉を唱和して食事をいただきます。

子どもは無料ですが、大学生以上の大人からは三百円いただいています。食材は寄付で足りないものは購入しますが、ボランティアや参加の大人も増え、毎回の食材費はこの会費で賄えています。

いまでは、子どもに限らず、家族や年配のおじいちゃん、おばあちゃんが安心して集える居場所になりました。参加してくださってる方の話を聞くと、お寺だから安心して参加できると言って下さいます。最近はもっとしゃべりたいということで、食事の後、コーヒーをいれておしゃべりをする「元気ワクワクカフェ」も人気です。

貧困の子どもに直接的な支援が出来ているかと問われれば、出来ているのかどうかわからないというのが回答になります。しかし、日頃からこのような老若男女が安心してつどえる場をお寺が提供することで、地域の人のネットワークが形成され、それが貧困問題を改善するセーフティネットの役割の一端を担うことが出来るのではないでしょうか。

「貧困の克服に向けて ～Dāna for World Peace～－子どもたちを育むために－」に取り組むための、参考書籍の紹介

近年、子どもたちが直面する生活の困窮の実態や貧困による不利の連鎖、いわゆる「子どもの貧困」問題に社会の注目が集まっております。こちらの著書では「社会問題としての子どもの貧困」にさまざまな立場から向き合う方々の協力のもと制作されており、貧困から子どもに生じる問題にどのように取り組むのか、最前線で取り組んでいる方々の実践事例により、読者の方々にそれぞれの立場から何ができるのか、何をすべきなのかを考えていただくきっかけとなる１冊となっております。

「貧困のなかにいる子どものソーシャルワーク」

編著者：大西 良（筑紫女学園准教授）　著 者：「子どもの貧困」に向き合う人々
出版社：中央法規出版株式会社　平成30年9月30日 発行
第１章 貧困のなかで生きる子どもたち
第２章 子どもの貧困とメンタルヘルス
第３章 子どもの未来へつなぐソーシャルワーク（11事例）
第４章 対話から汲み取る、思い、希望、夢
第５章 子どもの貧困対策～社会資源をつくる～

ビハーラ・ライン・福岡〈こころの電話〉
開設二十周年記念　感謝の集い

遠賀組　信行寺　喜多村　弘宗

ビハーラ・ライン・福岡〈こころの電話〉は、「ひとりで悩まないで話してみませんか」と相談者の方々に寄り添うことを最大の願いとして電話相談の傾聴ボランティア活動を行っています。

おかげさまで今年十月に開設二十周年を迎え、十月九日に本願寺福岡教堂にて「開設二十周年記念 感謝の集い」を開催致しました。

二胡奏者ユニット「Kobeni」の二胡コンサートの美しい癒しの時間を過ごした後、「弥陀回向の電話相談～現代社会の予防的カウンセリング～」と題して記念講演を行いました。

講師の譲西賢さんは、岐阜聖徳学園大学教授、臨床心理士、学校心理士、真宗大谷派慶円寺の住職です。治療的でなく予防的カウンセリングとして電話相談に求められるお話をいただきました。現代社会では他者とより深い関係を求めながらも、人間関係や心のつながりの希薄さから孤独感、不安感、喪失感の中で生きている人は少なくありません。自分の生きがいを認めてくれる存在、つまりそばに寄り添い話を聴いてくれる人、気持ちを理解してくれる人が求められています。その中で「いま、ここで、この人になら、ここだけの話として聴いてくれる」と電話の向こうの相談者の方々に感じていただけるように受容・共感・傾聴する大切さを学びました。それとともに電話を受ける私たち自身が育てられることもみ教えを通していただきました。

二十周年を迎え感謝とともに、私たちは改めて「あなたは決してひとりではありませんよ！」ということを伝える大切さをかみしめて、心新たにこれからも活動を続けてまいります。

寺院仏壮結成に向けた研修会

福岡教区仏教壮年会連盟理事　白木　冨士夫

九月二十八日、本願寺福岡教堂にて、第五連区寺院仏壮結成に向けた研修会が開催されました。

この研修会は、九州・沖縄地区を各連区持ち回りで開催されており、今年度は福岡教区の担当で開催しました。九州地区から二十二名、福岡教区五十七名の参加をいただき、講師・連盟副理事長を含め、総勢八十五名が真摯に学び合いました。

研修会の冒頭、福岡教区教務所・野村宗雄所長、前田浩治副理事長（宗派仏教壮年会連盟）よりご挨拶があり、野村所長は「次の世代にお念仏のみ教えをどのようにつないでいくか。仏壮活動を活性化することは大きな力になると思います。朋友の輪を広げる仏壮活動がより促進されますよう期待申しあげます。」と述べられました。

研修会では、義本弘導さん（浄土真宗本願寺派連盟講師）、武田正文さん（臨床心理士・スクールカウンセラー）、寺西説子さん（安芸教区呉東組真光寺）からお話をお聞かせいただきました。

義本講師より、私たちの日頃の行動を仏教の基本から説明いただき、無明の私たち、一人で生きていく私たちを、阿弥陀さまが引き受けてくださることを教えていただきました。それを知り、仲間作りをし、一緒に食事などをして、出会ったことが良かったと思うようなことが、仏壮の活動であると教えていただきました。

続いて武田講師より、テーマ「ともに聞き、まことのよろこびを伝えよう」から、「地域社会における世代間の交流」を図ることが仏壮結成の意義と教えていただきました。

寺西講師からは、数珠と念珠の違いや、浄土真宗のお念仏の意味について教えていただきました。その後、ワークショップにて、お念珠の男性用の紐房の編み方を、全員で実際に編むことを教えていただきました。

最後に、講師の皆様に質問に答えていただき、多くの質問の中で、安心（あんじん）についての質問がありました。義本講師より「安心とは信心を表す浄土真宗の言葉で、信心とは私に責任があり、安心とは阿弥陀さまが責任をとってくださる」と説明がありました。

閉会式では、福岡教区末松理事長より挨拶があり、最後に参加者全員で恩徳讃を唱和し研修を修了しました。

その後、夕食懇親会が開催されました。お酒を酌み交わしながら笑顔で意見交換がなされ、日頃より活発な活動をされている様子がうかがえ、大変有意義な懇親会となりました。

門徒代表者協議会　実践運動研修会

福岡教区門徒代表者協議会理事　梶原　文彦

十二月三日本願寺福岡教堂にて、「貧困問題について－子どもをとりまく環境および子どもの現状と課題－」というテーマで堀井智穂さん（福岡県警察本部少年課福岡少年サポートセンター少年育成指導官係長）よりご講演をいただきました。

堀井さんのいる課は、主に窃盗・薬物・いじめ・家庭内暴力・啓発活動を、その対策は警察・児童相談所などの他機関で行なっているなど行政機関の中身について説明がありました。

講師の堀井さん曰く、「貧困とは大切な何かが欠けている事」と定義をされ、また、「貧困には経済的貧困・文化（経験）の貧困・心の貧困の三種がある」と紹介されました。

本研修では、そのうちの文化（経験）の貧困の問題、心の貧困の問題について、堀井さんが業務上の体験を踏まえたうえで、いくつかの具体例を挙げてお話いただきました。

「離乳食を食べさせてもらった経験がない母親は、自分の赤ちゃんへも離乳食をあげない」という堀井さんが実際にあった事例に対して、堀井さんは自身の家庭で指導をされたそうです。

また、面接では相手の話に耳を傾ける、否定せず同じ立場になることを基本とする「傾聴」を大切にしているそうです。

面接を始めると子どもからは大人を試すように「うざい・キモイ・来るな・帰れ」という言葉が出て来るようです。これに耐えながら、その根っこには何があるかを探っていく活動は、途方も無い忍耐が試されると感じました。

具体例として、盗みをして小学四年生で補導された子の話をされました。警察からの名前などの問いに一晩中無言であり、朝になってやっと「夜に電話をかけると寝ている母を起こすから」と言い、迎えに来た母親は泣きながら子どもを抱きしめたそうです。その様子をみて、堀井さんは「生まれてきてくれてありがとう」という気持ちが母親に生まれたのではないかと感じたと言いました。盗みは「さみしさ」に直結しており、さみしさのままでは生きていくことができず、お金・物で充実される。子どもの親への愛は無償であり「盗み」をする子には親への無償無情の思慕の念があり、それに気づいた母親にも感謝の念がある。ここにはお念仏の世界がうかがえました。

志摩組 実践運動の取り組み

「人権啓発推進僧侶研修会」・「同朋運動研修会」・「実践運動推進協議会研修会」「連研」をはじめ、組全体で取り組む研修会・学習会に加えて、左記のような独自の取り組みを行っている。

①門徒講座（五ブロック）
組内を五ブロックに分けて、門徒総代会が主催する聞法会
今年度初めて、怡土組との合同研修会を行った

②仏壮法座（三ブロック）
組内を三ブロックに分けて、仏教壮年会が主催する聞法会
毎年、怡土組との合同研修会を行っている

③仏婦会員追悼法要
組内の前年度の物故者の追悼法要を組内法中の出勤で執り行う

④仏婦巡回講座（三ブロック）
組内を三ブロックに分けて、仏教婦人会が主催する聞法会
組内を五ブロックに分けて、一ヶ寺の報恩講に参り合う

⑥仏婦一日研修会
毎年、近隣教区(県外も)の寺院などに参詣し、観光・懇親会も行う研修会

⑦若婦一日研修会
仏婦若婦人部が毎年、近隣教区（県外も）の寺院などに参詣し、観光・懇親会も行う研修会

⑧寺婦研修会
寺族婦人会が年二回、テーマを決めて行う研修会と懇親会
毎年、怡土組との合同研修会を行っている

⑨連研修了者の集い
かつては、連研終了者が集まる門法会であったが、昨年度から、「マイレージ・スタンプラリー」という名称で「近隣の寺院の報恩講」に参り合う取り組みを行っている

⑩青少年育成部（若手僧侶の会）
若手の住職・若院が中心になって、毎月の聖典学習会、サマースクール、子ども報恩講の企画や運営を行っている

柳川組 実践運動の取り組み

少子高齢化した時代に、父や母を亡くし、初めて葬式を出し、お仏壇を求め仏教と出遇われる方が、お寺との付き合い、仏事のことなどをどうしていいものか悩んでおられる方が多くなった。

また若い世代に寺離れが問題視される今日、跡継ぎ世代をどのように育成していくか大きな課題である。そのような現状を踏まえて、柳川組の実践運動のテーマを「あとつぎ世代の育成」とし壮年会若婦人会の担い手の育成も考慮しながら、今回は、浄土真宗の基本的なことを学んでいただき、僧俗ともに悩みを語り合い、生活の中に根付く浄土真宗に近づく運動にしたいと考えた。

柳川組の重点プロジェクト「あとつぎ世代の育成」が今年も西福寺で開催された。三年間、組内若手僧侶を講師として迎え今回は「仏教と子育て」をテーマに、子育て世代を中心に約三十名の参加者にお話しいただいた。

はじめに、日常勤行聖典を参加者へ渡し、正信念仏偈を柳川組の僧侶と共にお勤めし、その後釈尊の基礎的な教えである①四法印（諸行無常、諸法無我、一切皆苦、涅槃寂静）②四諦八正道（苦諦、集諦、滅諦、道諦など）③縁起について学んだ。

質疑では、子育てについての悩みだけでなく、仕事の悩み・家庭の悩み・人間関係での悩みなど様々な悩みを多くの方が抱えており、参加者で解決方法等を意見しあった。参加された方の中には、初めてお寺に来た人や初めて正信偈をお勤めをした人今までお寺や仏教にご縁のなかった方もいたと思うが、今回の集いを通して少しでも興味・関心を持っていただき、仏教の視点を持って日頃の生活につなげていただければと思う。

《参加者の声》

○皆同じような悩みを持っていることがわかった。
○日頃の生活に追われ、何が問題なのかがわからない。
○お寺のイメージがよくなった。
○お寺に話を聞きに行くのは、まだ先だと思っていた。
○今はわからない事ばかりなので何回もお話を聞かせていただくしかない。
○悩みをためずに話すことが大事・話せる場が必要。
○子育てや仕事が忙しくて、なかなかお寺に行けない。

早良組 実践運動の取り組み

早良組重点プロジェクトは、御同朋の社会をめざす運動（実践運動）総合基本計画に基づき、実践目標を掲げ、左記の三点を「重点プロジェクト」として取り組んでまいりました。

a、東北被災地支援活動…「安穏交流プロジェクト」への参加

b、三点セット運動…聖典、念珠、式章を携行しましょう。（継続）

c、離郷門信徒の集いの開催に向けての情報収集、検討、計画

重点プロジェクトを受けて

a、安穏交流プロジェクトへの参加

成果：二〇一六（平成二十八）年七月二十五日（月）～二十六日（火）に行われた早良組子どものつどいに、安穏交流プロジェクトから東北の子どもたち十四名が参加していただき、お仏事や寝食を共にして交流を深めて行くことが出来た。

課題：この度は、青少年部が主となり安穏交流プロジェクトに参加することが出来たが、一部門が主として行うのではなく、早良組全体（各寺院）で関わりを持つことを考えなければならない。

b、三点セット運動

成果：法座や研修会で「聖典」「念珠」「門徒式章」の携行を呼びかけており、携行される方が増えてきた。

課題：法事や研修会では式章をされる方は増えてはいるが、葬儀では普段着用している方でも、着用してない方がまだまだ多い。

本願寺第八代の蓮如上人は、「念珠を付けないのは仏さまを素手でわしづかみにするようなものだ」とおっしゃっています。すなわち、仏教徒として仏さまを敬う心の表れであることを伝える必要がある。

c、離郷門信徒の集いの開催に向けての情報収集、検討、計画

情報収集し、平成二十九年七月一日に築地本願寺において開催しました。

一言法話

僕らは「ご縁」でできている

下川東組　明行寺
福山　智昭

昨秋「僕らは奇跡でできている」というテレビドラマを観ておりました。主人公は大学で動物行動学を教えている相河先生。生き物の不思議を追いかけることに没頭し、時に周囲を困らせ、苛立たせてしまう変わり者。しかし、何事もありのままを受け止める相河の言動が、周囲の人々の「常識」に捉われて固くなった心を、緩やかに解きほぐしていく、そんなお話です。

ある回で、相河を慕い、家族に無断で動物のことを尋ねに来た小学生の虹一君が、母親に叱られる場面が描かれます。「塾に行かずに何してるの！どうして皆と同じように出来ないの！」という母親に対し、相河は自身の想いを伝えます。「僕は彼と一緒にいると本当に楽しいです。僕も子供の頃、皆と同じように出来ないことを責められました。でも中学の時、理科クラブで初めて褒められました。生き物のことで一番になって、周りを見返してやると思いました。すると、生き物の観察が楽しくなくなり、辛くなりました。そんな時祖父が『やりたく無いことは辞めれば良い』と笑ってくれました。あの頃の僕は、自分のことが嫌いで毎日泣いていたけれど、祖父のお陰で、理科が出来ても出来なくても『僕はここに居て良いんだ』と思えました。そうして自分と仲良くなれたのです。どうか他の誰でもない『彼自身』を見てあげませんか。」

ありのままの虹一君を受け止めた言葉は、阿弥陀様の願いの一端を知らせてくれます。阿弥陀様がご修行の身であった時、人生に不安や憤りを感じながら生きる私達に「変われ」と仰るのではなく、「私があなたを救える仏になる」と四十八の願いを建て、長い間ご修行くださいました。その功徳が込もった「南無阿弥陀仏」のお呼び声が、今私の口から出てくださいます。浄土真宗に馴染みの薄い「奇跡」という言葉は、今、私にはたらいて下さる阿弥陀様のご苦労を聴く「ご縁」、「南無阿弥陀仏」に出遇っていることと言えるのかもしれません。

福岡教区教務所の予定表

月	日	曜	時	内　容
1月	7	月	9:00	通常業務開始
	8	火	10:00	仏教婦人会連盟　支部長会
	9	水	14:00	ビハーラ・福岡　例会
	10	木	15:00	第３回社会福祉推進協議会　役員会
	17	木	14:00	ビハーラ・ライン　例会
	20	日	10:30	少年連盟　子どものつどい
	21	月		第５連区門徒推進員代表者協議会（大分～22日迄）
	22	火	13:00	ビハーラ・ライン　役員会
			15:00	子ども・若者ご縁づくり推進委員会
	24	木		福岡教堂・福岡教区報恩講準備
	26	土	13:30	福岡教堂・教区報恩講法要（～28日迄）
	30	水	15:00	実践運動　門信徒教化部会
				第５連区門徒総代協議会（佐賀～31日迄）
2月	1	金	14:00	護持口数調整委員会
	4	月	15:00	布教団　役員会
	5	火	13:00	門徒推進員連絡協議会　役員会
			13:30	西嘉穂組僧侶研修会（明光寺）
	6	水	14:00	ビハーラ・福岡　例会
	7	木	11:00	実践運動非戦・平和部会、時局問題対策協議会　合同会議
			13:00	時局問題対策協議会　公開講座
	8	金	14:00	第３回社会福祉推進協議会評議委員会
			15:00	実践運動　広報部会
	12	火	13:30	本派矯正教化連盟福岡管区支部研修会（～13日迄）
	13	水	13:30	鞍手組僧侶研修会（円照寺）
			14:00	ビハーラ・ライン　例会
			14:30	下川東組推進協議会（明行寺）
	14	木	11:00	清掃奉仕（八女組・鞍手組）
			13:30	親鸞聖人鑽仰講座（～15日迄）
	16	土		門徒推進員連絡協議会第２回全員研修会
	17	日	13:00	連研履修者教区研修会
	18	月	13:30	上下組僧侶研修会（建立寺）
				第46回九州地区保育研修会宮崎大会運営委員会（宮崎～19日迄）
	19	火	10:00	寺族婦人会連盟　幹事会／13:00　寺族婦人会連盟　実践運動研修会
	20	水	16:00	保護司会研修会
	21	木	13:30	第３回僧研講師養成研修会／14:00　布教団　役員会
	22	金	15:00	保育連盟園長研修会
	23	土	13:30	第５連区仏青リーダー研修会（～24日迄）
	25	月	14:00	実践運動　常任委員会／14:00　柳川組推進協議会
	26	火		第５連区青年布教使大会（鹿児島～27日迄）
	28	木	14:30	実践運動研修会同朋運動部主催「運動を担うわけ」
3月	4	月	未定	実践運動研修会寺院機能推進部会主催「子どもの貧困問題について」
	5	火	12:00	第５連区実践運動合同会議（～６日迄）
			14:00	ビハーラ・ライン　例会
	6	水	14:00	ビハーラ・福岡　例会
	9	土	13:30	第３回仏教壮年会連盟理事会
	11	月	16:00	実践運動　広報部会
	12	火	15:00	組長会
	13	水	14:00	実践運動　同朋運動部会
	14	木	11:00	清掃奉仕（東筑組・三門北組）／13:30　親鸞聖人鑽仰講座（～15日迄）
	25	月	13:30	子ども・若者ご縁づくり教区研修会
	26	火	14:00	実践運動　常任委員会
	27	水		教務所長・宗務長・輪番・主管合同会議

編集後記

新年あけましておめでとうございます。ついに平成最後のお正月を迎えました。巷では平成最後の○○というコピーをよく見かけるようになりましたが、お寺の案内にも平成最後のお彼岸法要などと書いて、特別感を演出しようかと考えております。

発行責任者
浄土真宗本願寺派　福岡教区教務所長　野村　宗雄
〒810-0055 福岡市中央区黒門3―2
電話:092（771）9081